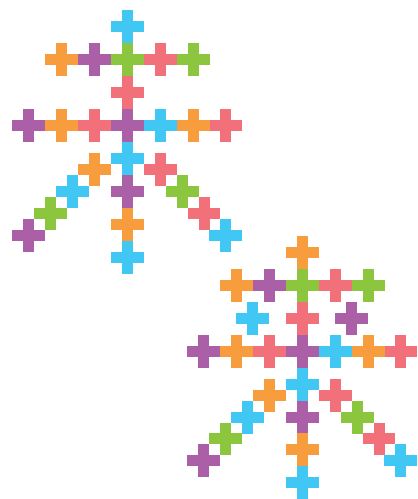




ミュージアムをめぐる アナリシス 1 対話と共生



未来の鑑賞者と向き合う ー乳幼児とその家族たちとの協働

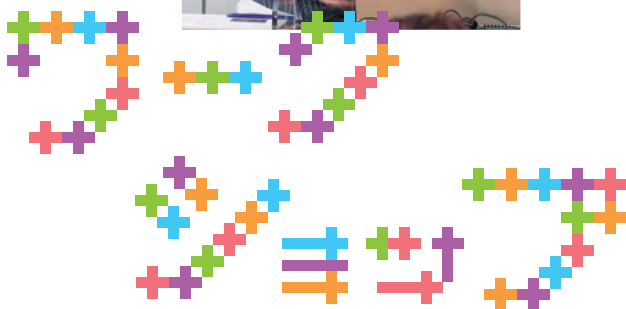
乳幼児とアートとの出会いの場をつくるために、
ミュージアムには何ができるのか。
未来の世代に鑑賞を
プレゼントするための新しい実践について、
第一人者とともに考える。

日時／ 2022年8月6日(土)13:00～15:00
会場／ 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W408教室
※zoomを用いたオンライン配信を併用
講師／ 杉浦 幸子(武蔵野美術大学造形学部教授/社会設計家)
参加者のべ64名(オンライン配信、事後配信視聴者を含む)

アートとしての ワークショップ、その行方

比較的少数の対象者に向けて行われる
ワークショップは、確かに非効率的かもしれない。
参加者の特性やアクシデントに
左右されやすいという不確実性も否定できない。
しかし、そこには、参加者の心を強くゆさぶる
特別な瞬間がしばしば訪れる。
いま、改めて問い直すワークショップの底力。

日時／ 2022年9月10日(土)13:00～15:00
会場／ 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W202教室
※zoomを用いたオンライン配信を併用
講師／ 岡本 康明(京都芸術大学客員教授)
参加者のべ51名(オンライン配信、事後配信視聴者を含む)



共にみることを求めて ー見えない人と共に新しい美術を切り拓く

観るための場として発展してきた近代的なミュージアムは
ときとして視覚以外の感覚に頼る人たちを
直視せず、あるいは無視してきた。
しかしいま、みえる人とみえない人をつなごうとする
試みが多くの場所で育っている。
ミュージアムが、社会を分断しかねない冷たい論難の場ではなく、
知性と感性で人びとをつなぐ豊かな交感の場であるために
「みる」ことのあり方を改めて問い直してみよう。

日時／ 2022年9月17日(土)13:00～15:00
会場／ 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W202教室
※zoomを用いたオンライン配信を併用
講師／ 日野 陽子(京都教育大学教育学部准教授)
参加者のべ40名(オンライン配信、事後配信視聴者を含む)

